第7回 長浜市総合計画審議会 議事録

- I 日 時 平成28年8月8日（月曜日）14時03分～16時00分
- II 場 所 長浜市役所東館3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）
- III 出席者 石井良一委員（会長）、 平山奈央子委員、 松島三兒委員、
大久保楨雄委員、 前田優子委員、 塚田益司委員、
中西恭子委員（副会長）、 福島孝夫委員、 板山きよ美委員、
平川市孝委員、 川崎四朗委員
【長 浜 市】藤井勇治市長
【事 務 局】松居総合政策部長、米田総合政策部次長兼総合政策課長
野村課長代理、川村主幹、富永主査
- IV 欠席者 神谷昌史委員、大谷晶子委員、中嶋毅委員、押谷喜美子委員
- V 内 容
- 1 開 会
- 事 務 局 事務局は、開会を宣言した。
- 2 市長あいさつ
- 市 長 昨年6月に審議会を設置して以降、本日で7回目の会議となる。
毎回、幅広い視点から慎重で熱心な議論・審議をいただいていることに、
まずお礼申しあげる。
総合計画は、市の最上位計画であり、これからの10年先を見据えた市
政運営の羅針盤となることから、私自身も大変注目しており、随時、担
当者から報告を受けてきた。
策定にあたっては、市民懇話会や100人委員会、中高生によるワークシ
ョップ、市民アンケート、作文・絵画コンクールなどを通して幅広い世
代のたくさんの市民意見を聴取し、計画に踏まえていただいた。
本日の審議を踏まえ、明日、答申いただく予定となっている。
市としては、いただく答申を忌憚のない意見として真摯に受け止めさせ
ていただき、9月の市議会に上程し、年度内に新しい総合計画として決
定する予定である。
今後とも、様々な分野でお力添えを賜りたく、よろしくお願ひしたい。

3 議 事

(1) 総合計画策定に向けたこれまでの主な取組について

事務局 事務局は、資料1に基づき説明を行った。
一質疑なし

(2) 長浜市総合計画 基本構想（最終案）・基本計画（最終案）について

事務局 事務局は、資料2、資料2-1、資料3、資料4に基づき説明を行った。
会 長 基本構想から順に区切りをつけて確認していきたい。

最終的には、基本構想と基本計画はセットで印刷されるということによいか。

基本構想11ページの将来都市構造について、「現在改定中の都市計画マスタープランとの整合を図ります」と記載しているが、既に整合は図られたという認識でよいか。また、水辺空間軸が琵琶湖沿岸のルートのように読み取れるが、都市計画マスタープランではどのように表現されているのか確認されたい。

事務局 基本構想と基本計画はセットで印刷することとなる。

都市計画マスタープランについては、現在改定作業中であることから、引き続き整合を図っていく。なお、都市計画マスタープランは、基本構想と同様に9月に策定する予定である。

委 員 基本構想9ページの「3 まちづくりの政策」の説明文と基本計画の各政策の最初のページにある説明文の整合が取れていない箇所がある。これについては合わせるべきではないか。

事務局 基本計画の検討を進める中で、6つのまちづくりの政策の組み合わせ及び内容を変更したことにより、ご指摘の差異が生じたものである。原則として、基本計画の内容に合わせて基本構想の文章を修正する。

会 長 基本計画3ページの「重点テーマの具現化に向けて」の記載は、基本構想8ページと内容が重複することから、削除もしくは再掲と記載することが望ましいと思われる。

事務局 基本計画3ページは、削除させていただく。

会 長 基本計画4ページ以降にある各プロジェクトの主な取組例について、該当ページも追加されたい。

事務局 後に、ページ数を追加することとする。

会 長 政策1について、ご意見があれば伺いたい。
一なし

会 長 政策2について、ご意見があれば伺いたい。
一なし

会 長 政策3について、ご意見があれば伺いたい。
一なし

会 長 政策 4 について、ご意見があれば伺いたい。
 会 長 基本計画 111 ページの「②地域資源を生かした集客交流の展開」の中に、観音の里に関する記述があまりされていない。先の 110 ページに記述のある「びわ湖長浜 KANNON HOUSE」は未来永劫続くわけでもないと思われ、発信から集客交流に展開するためのシナリオを記載すべきと思うので、担当課に確認されたい。

事 務 局 担当課に確認し、追加する方向で検討する。
 会 長 政策 5 について、ご意見があれば伺いたい。
 ーなし

会 長 政策 6 について、ご意見があれば伺いたい。
 ーなし

会 長 市議会からの提言の取扱いはどうされたのか。
 事 務 局 市議会からは、計 38 項目について提言いただき、ほぼ全ての項目に対して、何らかの形で反映している

会 長 基本計画の最後にある「計画の推進に向けて」については、新しく追加された部分であるので、事務局から説明をお願いするとともに、ご意見があれば伺いたい。

事 務 局 事務局は、資料 3 の 146 ページ以降について説明を行った。
 委 員 「行財政運営・行革の推進」は、一般的に馴染みのない言葉であり、省略せず「行財政運営・行政改革の推進」と正式名称で表現した方がよいと思う。
 「計画の進捗管理」にある PDCA の図について、従前の方がよかったと思う。前回の審議会での指摘は、各主体の役割がわかりにくいという意味であったと思うが、今回の図では、取り組む主体と内容やスケジュールの情報が全て抜け落ちてしまっており、抽象的すぎてわかりにくい。長浜らしさの無い一般的なものという印象を受けた。

事 務 局 前回の審議会での意見等を踏まえ、シンプルなものに変更した。なお、PDCA により進行管理を図るにあたっては、各分野別計画において実施している進行管理と整合を図りながら進めたいという意図があり、このように変更させていただいた。

会 長 基本計画の期間は 2 年であり、次年度スタートした途端にすぐ次期基本計画に向けた見直しが必要となる。しかし、このような抽象的な内容では、いつ見直しをかけるのかが読み取れない。また、誰が評価するのかという点について、市民の意見を聞いて策定したものを内部だけで評価してよいのか、外部の意見を取り入れると記述しているが、それはワークショップなのか委員会なのか、それとも懇談会なのか何もわからず、大雑把であると感じる。実効性を高めると言いつつも、このままでは実効性は高まらないのではないか。

委員 策定に向けたこれまでの取組をみると、非常に丁寧に市民意見を聴取し、積み上げられてきたと思う。今後とも懇話会などの組織が継続するかどうか。仮に継続するのであれば、どれくらいのスパンで意見を聞く機会を設けるのかなど、記載できればと思う。

委員 抽象的なので、上手く機能するような方策をもう少し具体的に記載した方がよいと思う。

会長 事務局として、「〇〇という形でやりたい」という考えはあるか。

事務局 今回の計画策定にあたりご協力いただいた方々のお力をお借りする形で、今後においてもチェックいただく体制ができればと考えている。

会長 市として行うべきことは、指標の評価と施策の進捗管理が主になると思う。そのような自己評価を取りまとめ、懇話会などの場で示して外部の意見をもらうなどのローリングを行えばよいのではないか。例えば、見守り役として新たな組織をつくるのか、それとも懇話会などの既存組織を活用するのかを検討されたい。庁内だけで指標と成果を並べるだけでは、何も反映されないと思う。

委員 日々、社会情勢は変化を続けており、指標の数値は2年も経てばかなり変わってくると思うので、数値管理だけで評価するのは難しいのではないかと思う。数値目標は達成したが、果たしてそれで目指す姿に到達できたかどうか、それを評価することが重要だと思う。

委員 目標値は、暫定的な位置づけという認識でよいのではないか。2年後の状況で、目標設定が適正であったかどうか、議論の場が必要だと思う。

委員 途中でチェックできる場が必要だという議論であるが、これまで長浜市では、そのような評価の機会はなかったのか。

事務局 これまでは、100人委員会や個別計画の策定・進捗管理の機会等を通じて伺ってきた。

委員 個別計画の進捗管理として既に実施していることを整理し、全体としていつ・どのように回すのかを具体化することで、市民との連携が生まれると思う。

委員 Challenge & Creationについて、この概念は果たして何なのか。計画の中のどの部分がチャレンジで、どのようにクリエイションするのか、問われた場合に上手く説明できるか。

会長 例えば都市計画マスタープランであれば、常設する都市計画審議会や景観審議会などの組織体があるが、策定後の総合計画ではそのようなものではなく、この審議会も計画策定のためだけに招集された臨時的なものである。1つの案として、当審議会を常設化し、年に一度でも会議を招集し、進捗の報告を受け評価する仕組みをつくることも考えられる。外部からの意見を聞く組織を持っている方が、市としても業務を推進しやすいのではと思う。

チャレンジとクリエイションの意味するところは、重点プロジェクトだ
と思う。設定したプロジェクトがきちんと実行できるよう、各課が集ま
って議論されればと思う。6つの政策については、どの市町でも同様に
実施するものであるが、重点プロジェクトが本当に実現できるかどうか
は、市の力量が問われるところだと思う。

委 員 各分野でいろいろな会議体があると思うが、総合計画との関連性がはっ
きりしていない部分もあると思う。それらを整理し、役割の分担を行う
ことで、PDCA を上手く回していければと思う。

また、本計画中には琵琶湖に関する記述がほとんどないことが気にな
る。人が関わる部分に関する計画であることから、人の住まないところ
には及ばないのかという感想を持ったが、貴重な財産であることから、
上手く活用できないかと思う。次期計画において、そのあたりをクリエ
イションしてほしい。

委 員 琵琶湖の管理者は滋賀県ということもあり、市の政策として打ち出しに
くいのだと思うが、長浜市の貴重な資源として琵琶湖を考えると、記
述がないのは違和感がある。

委 員 琵琶湖は、観光面では非常にスポットを浴びている。

事 務 局 精神的な部分、イメージ、市民の取組などについて、次回の検討時に反
映できればと思う。

委 員 我々は、琵琶湖から受ける恩恵を当たり前のこととしてしまっているの
ではないか。

会 長 重点プロジェクトを見ても、水辺環境に関する記述がない。

事 務 局 水辺環境という意味では、重点プロジェクト 2-3 の「恵まれた地域資
源～」が該当すると考えている。

長浜ブランドという意味では、「びわ湖長浜」という表現でPR を行っ
ている。なお、分野別に考えると担当部局が難しいところではあるが、大
きな地域資源と捉えて、一体的にアプローチしていくのがよいのではと
考えている。

(3) 答申(案)について

事 務 局 事務局は、資料5に基づき説明を行った。

会 長 答申文には「毎年度、評価検証を行い、実効性のある進行管理を行うこ
と」と書いてある。

委 員 本文の3段落目に「地域の声」とあるが、そう書いてしまうと、地域毎
のバイアスが入ってしまうように感じる。「出された意見など、市民の
声～」とした方がよいのではないか。

会 長 昨年10月に懇話会から提言を受けたが、その内容はかなり丁寧に整理
されていた。この懇話会組織は、これで終わらせてしまってよいのか。

委員 懇話会において、政策の実行段階でも何らかの形で関わりたいという意見もあったが、具体的な話には至っていない。市民も政策実現に関わっていくという趣旨からすると、各分野で活躍されている懇話会メンバーの力を活かせる場面があればと思う。

4 その他

(1) 今後のスケジュールについて

会長 本日の意見を踏まえて、答申・議会上程に向けて進むこととなるが、今後のスケジュールについて、説明いただきたい。

事務局 事務局は、当日資料1、当日資料2に基づき説明を行った。

会長 本日の議論を整理すると、要点は以下の3点に整理できる。

- ① 観音の里に関する内容の追加については、担当課と調整する
- ② 琵琶湖との関係性については、次期計画策定時に検討する
- ③ 評価については、市民が参画する組織に諮って意見を聞くような形式を検討する

会長 3点目について、市として思いあたる会議体はあるか。

事務局 今回の計画策定にあたりご尽力いただいた市民懇話会を基礎として、新たな組織を作りたいと考えている。

委員 現行の基本構想の下では、どのように評価されてきたのか。

事務局 これまでは、内部で検証・評価を行い、その結果を公表してきた。また、毎年度市民アンケート調査を実施し、満足度という形で市民の意見を聴取している。

会長 市民をはじめ、第三者が進捗を評価する場や組織が必要だと思うか。

委員 地域づくりプランナーや公民館での活動などを通して、地域の意見を聴取できる仕組みを構築するのもよいのではないか。

委員 以前の総合計画審議会はどのようにされていたのか。

事務局 ずいぶん前のことであるが、基本構想の策定のために審議会を設置し、策定後に解散するという方式で行ってきた。なお、当時は地方自治法で審議会の設置が義務付けられていた。

委員 縦割り行政の弊害が叫ばれる中、総合計画ならびに同審議会は総合的な拠り所となる組織だと思うので、継続するメリットはあると思う。

会長 今ほども意見があったが、数値が達成されたかよりも、「挑戦と創造」がきちんとできたかどうかを評価する場を形作ることが重要だと思う。「挑戦と創造の総合計画懇話会」のような組織を設置し、毎年1回か2回の会議を開催して市民も交えた会議で意見を出してもらうような場を作っておくと、未来に繋がっていくと思う。

そういったことが検討可能であれば、答申に「市民とともに評価検証」という文言を追加してはどうかと思う。

委員 市民が関わっていけるところは、重点プロジェクトだと思う。各プロジェクトの方向性ははっきりしているので、目標はこれで良いのか、何を達成していくべきなのか、という議論を、市民を交えてしていくことが望ましいと思う。

会長 そういう意味でも、若手の人たちが集まった懇話会はよい組織であると思う。

委員 審議会と懇話会をシャッフルしても良いし、これまで検討してきた経過も踏まえるならば、これら組織を活かしていく方がよいと思う。

委員 委員として2年間議論してきた立場でもあるので、一市民として、協力できるところは協力していきたいと思う。

会長 審議会と懇話会のシャッフルで良いと思う。作った人が責任をもって見守っていく体制にしておくと、作りっぱなし、言いつぱなしに不再う良いと思う。行政的にはアンケートという手段もあるが、中身を評価するためには、このような対話型の場が必要であると思う。

事務局 検討させていただく。

会長 PDCA についても記載可能な部分は追加していただきたい。本日の議論を踏まえた修正版を作成した上、明日の答申に臨むこととする。

以上